



梅の花 咲きて散りなば桜花

久しぶりに学校に子ども達の明るい笑顔が戻ってきて、これまで懸命に咲くのを我慢していたかのように見えていた学校の桜が、今日、一斉に咲いたように思えます。

本来であれば、子ども達が1年間の学校生活の成果を分かち合う「まとめの時期」となるはずの3月でしたが、これまで学校へ来ることが出来ないまま修了式の日を迎えることとなりました。休校期間中は、ご家庭においても不安な状況が続いていたことと思います。新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐためとはいえ、今日の修了式も体育館に集まることなく放送で行い、学級でも十分な時間をとることができなかったことは本当に残念でした。

しかし今、多くの人々が、今まで当たり前だと思っていたことが実は当たり前ではなかった、ということに気づき、様々なことをあらためて考えなおしてみることで、本当に大切なことは何なのか、ということを考える契機になった面もあると思います。

学校に来ること、授業を受けること、給食を食べること、友達と話すこと…。子ども達がこれまで当然のように過ごしてきた毎日の生活も、失ってみて初めてそれら一つ一つが持つ意味がわかるものなのかもしれません。それは、私たち大人も同じことなのでしょう。

昨年、全校集会で子ども達に、中学校生活は1枚の紙を毎日積み重ねていくようなものだ、という話をしました。1枚だけでは、吹けば飛ぶようなたった1枚の紙でしかありませんが、毎日1枚ずつ積み重ねていくと、次第に存在感を持つ紙の束になっていく…。中学校生活はそれに似ている、という話でした。

先日の卒業式では、卒業生代表の小林和夏さんが、積み重ねた紙の束にあたる中学校生活を振り返って「冒険」と呼び、一枚一枚の積み重ねを「一つ一つのミッションをクリアしながら前へ進んできた」と明るく表現してくれました。また、「梅の花 咲きて散りなば 桜花 継ぎて咲くべく なりにてあらずや」という和歌を万葉集から引用し、花から花へと続く春のリレーのような花の輝きを、人生の輝きの予感になぞらえて話してくれました。(卒業式の様子とく卒業生代表の言葉>は、本校ホームページの3学年だよりに載っています。)

毎年春になれば花が咲き、また次の花が継いでいく…。それは学校での子ども達の姿にも似ています。毎年この時期、3年生は2年生に、2年生は1年生にバトンを渡して、それぞれが少しずつ、でも確実に成長していきます。気づけば、いつの間にか蕾は大きく膨らみ、やがて必ず花開く時が来ます。子供たちにとって、学校はそういう場所です。

世界中で新型コロナウイルス感染症の対応を余儀なくされている中ではありますが、学校はもうすぐ新年度となり、子ども達もそれぞれ新学年へ進級して新しい一歩を踏み出します。本校教職員も年度末人事異動で20名が退職および転出し、それに伴い4月から新しい職員が着任します。実は私、校長の向笠も今年度末で定年により退職となります。

船橋中学校は、子ども達も私たち教職員も、胸を張って誇れる素晴らしい学校です。2年間という短い期間でしたが、本当にいろいろな方々にお世話になりました。保護者・地域の皆さま、そして船橋中学校の生徒達、卒業生、本当にありがとうございました。